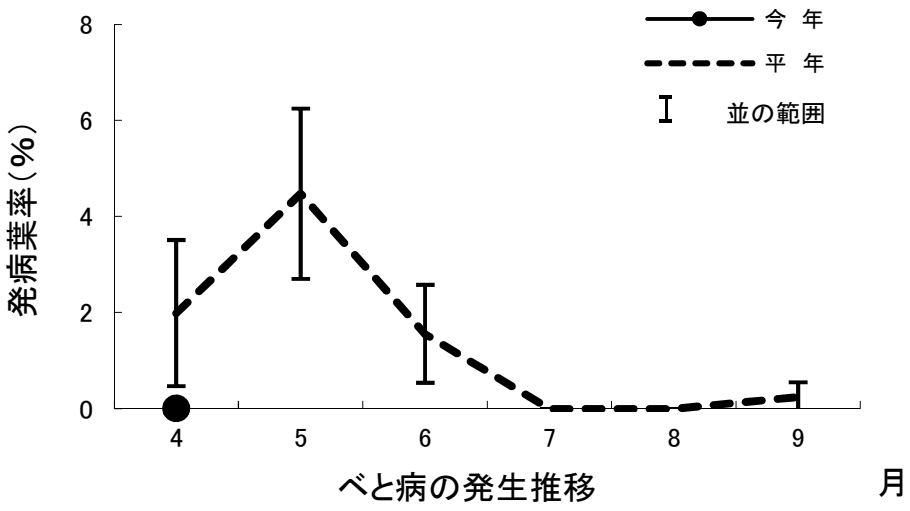
平成　30 年度

作物	へちま	地域	沖縄群島
病害虫名	① べと病		
4 月の発生量（現況）	(発生なし)やや少		
5 月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	発病葉率の平年の発生推移から、4月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）



防除のポイント

・気温が10～25℃で多湿条件下で発生しやすい。

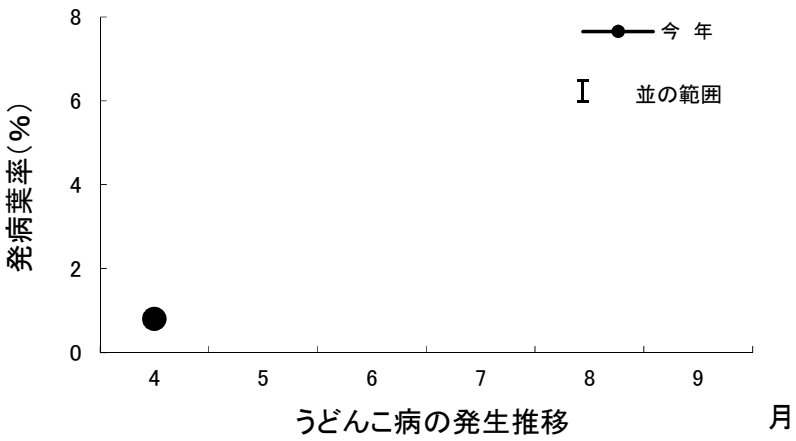
・老化した葉を除去し、採光・通風を良くする。

・適正な施肥管理を行う。

平成　30 年度

作物	へちま	地域	沖縄群島
病害虫名	うどんこ病		
4 月の発生量（現況）	判定不可		
5 月の増減傾向			
増減傾向の根拠	データ蓄積不足のため判定不可		

発生量の根拠（調査結果）



防除のポイント

・老化した葉を除去し、採光・通風を良くする。

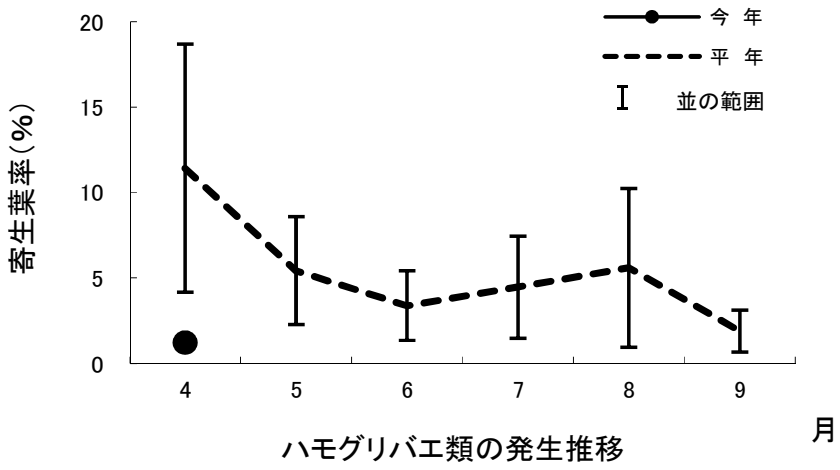
・窒素質肥料の多施用は避ける。

・発病初期から登録薬剤を散布する。

平成　30 年度

作物	へちま	地域	沖縄群島
病害虫名	② ハモグリバエ類		
4 月の発生量（現況）	ややや少		
5 月の増減傾向	↘		
増減傾向の根拠	寄生葉率の平年の発生推移から、４月より発生量は減少すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）



防除のポイント

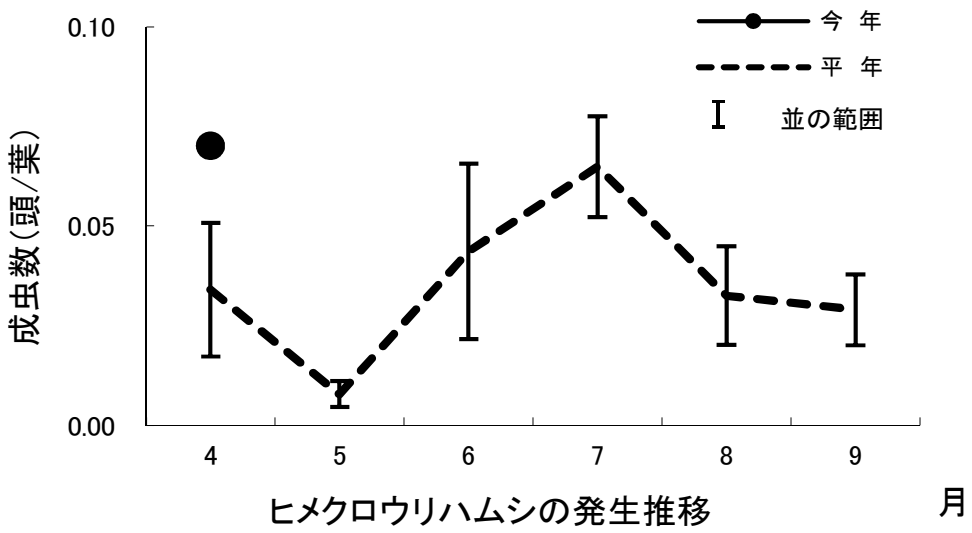
・本種の寄生痕から病害が侵入する場合があるため、発生初期の防除を徹底する。

・ほ場周辺の雑草は本種の発生源になるので除去する。

平成　30 年度

作物	へちま	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ヒメクロウリハムシ		
4 月の発生量（現況）	やや多		
5 月の増減傾向	↘		
増減傾向の根拠	成虫数の平年の発生推移から、4月より発生量は減少すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）



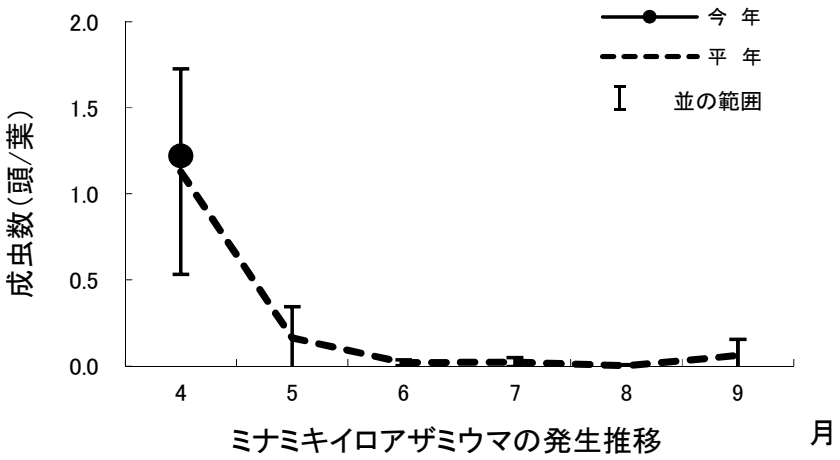
防除のポイント

・シルバーテープなど光反射資材を利用し、成虫の飛来防止に努める。
・ほ場内外のウリ科雑草は発生源になることから、根も含めて除去する。
・産卵防止のため、地際部をシートなどで覆う。
・動きの鈍い午前中に成虫を捕殺する。

平成　30 年度

作物	へちま	地域	沖縄群島
病害虫名	④ ミナミキイロアザミウマ		
４月の発生量（現況）	並		
５月の増減傾向	↘		
増減傾向の根拠	成虫数の平年の発生推移から、４月より発生量は減少すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）



防除のポイント

・葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。

・多くの雑草に寄生するため、ほ場内外の雑草除去に努める。

・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。